

- 1 だいちくは、一きようめに、学年・学校・組・名まえは三きようめに書き、文しよは三きようめの二ばんめのマスから書きましよう。
- 2 だんらくのはじめは、一字きけて書きはじめ、だんらくごときようをかえましよう。
- 3 詩や文は、どのきようも三はんめのマスから書き、あたまをそろえましよう。

() 月 日 曜日

屋久島の自然 0820

永田小 三年 田仲 来光

「こけむす森を目標すぞ」

もう言ッア、私は家族と一緒に白谷うんすい
 きまうへ出発しました。山道に入ると、どん
 どん階段を上り、険しい道で進んでいきまし
 た。歩きはじめたばかりなのに、もうすアに
 まわりの空気はアもすがすがしく、ホ々の
 あいだから差し込む光が川の音が特別な世界
 の中に迷い込んだようにさせ、私はワクワク

した気持ちになりました。
 しばらく進むと、体もだんだん疲れてきて
 足も少し痛くなってきました。

「そろそろ休みたいな」
 と思ったとき、ちやうど目の前に小さな川が

流れていました。冷たいうち水に足をつけ
 みると、一気に疲れがぬけて足がアアも軽く

なり、
 「またかムばろう」

という気持ちになりました。自然の力です

- 4 ・と、は、それぞれ一字にかぞえて、一マスの中に書きましよう。
- 5 おはなししたところは、「」の中に入れてきようをかえて、おはなしだけを書きましよう。

(不許複製)

鹿児島県小学校教育研究会国語部会選定



- 1 だいまくは、二ぎようめに、学年・学校・組・名まえは二ぎようめに書き、文しようは三ぎようめの二ばんめのマスから書きましよう。
- 2 だんらくのはじめは、一字きけて書きはじめ、だんらくことにぎようをかえましよう。
- 3 詩や文は、どのぎようも三ばんめのマスから書き、あたまをそろえましよう。

（ ）月 日 曜日

二いなと、そのとき強く感じました。
 二からさらに険しい道を進むとき、何度もお母さんに「はげましてもらいな、かきふりしほ、ア歩き続けました。やがてくぐり杉と、いう太きな杉の木に出会いました。名前の通り、木の根元がトコネのようになって、ア、中をくぐることができませんでした。思っただよりもずつと低リトコネルた、たので、頭をぶつけたりしまりました。自然がつく、たトコネ、直ぐぐる体験は、アもびもしく、心に残りました。

その先に少し広くな、た場所があり、そこはちやうど休けり所のよてになつておりました。まじきを下ろしてひと体みすると、足も気持ちもまた元氣を取りもどせました。ふと地面を見てみると、小さな松ぼくりがいくつも落ちてあつりました。普通の松ぼくりもずつと小さいつ私はそれをつちびちび松ぼくりと心の中で呼びました。そのかおいらしさに思ぢが笑顔になりました。

- 4 、と、は、それぞれ一字にかぞえて、「マスの中に書きましよう。
- 5 おはなししたところは、「」の中に入れてぎようをかえて、おはなしだけを書きましよう。

(不許複製)



- 1 だいまくは、一きようめに、学年・学校・組・名まえは二きようめに書き、文しよは三きようめの二ばんめのマスから書きましよう。
- 2 だんらくのはじめは、一字きけて書きはじめ、だんらくに二きようをかえましよう。
- 3 詩や文は、どのきようも二ばんめのマスから書き、あたまをそろえましよう。

（ ）月 日 曜日

まわりを見あげると、高木が何本も
 びえ立ってました。幹にはびっしりと緑
 色のニけがっついて、ふわふわのニットの
 服を着ているように見えました。大きくて力
 強い木なのに、やさしい雰囲気もあって、
 の姿に感動しました。こうして自然の中で新
 しい発見をするたびに、屋久島ですごくな
 とびがちな思いました。
 二層食をた休けた所の近くに、名前のつ
 いた杉がありました。その木にはしかのさど

と書かれた札がかかっています、説明文を讀む
 と小学五年生が名づけたと書いてありました
 ました。形が鹿に似ているからという理由が
 名づけたそうなんです。

が、この思いがっついては着いてみ
 ると、むしろ今まで歩いて来た道の方が二け
 が多かったです。たなと思っ、て少しおかし
 くなった。たなでもゴロンに着いたことで、
 大きくなった。

せ、感味あうことができませんでした。

- 4 と、は、それぞれ一字にかえて、「マ」の中に入れてきようをかえて、おはなだけを書きましよう。
- 5 おはなした「るは、」の中に入れてきようをかえて、おはなだけを書きましよう。

(不許複製)

